TSUKUBA ALUMNI

公益社団法人
シャンティ国際ボランティア会
ラオス事務所 コーディネーター
浅木 麻梨耶 氏

タイ難民キャンプにて

「0期生」が拓く国際ボランティアの道

これまでのキャリアや生活において、筑波大学でよかったと思うこと

現在は、ラオスで、多言語の少数民族の子どもたちに対する教育の支援や、水保健衛生に関する啓発活動に従事しています。直接子どもたちと触れ合うというよりも、先生向けの研修などを、地元の政府や自治体の人々と協力しながらサポートしています。

中学の時、海外協力隊出身の先生にいろいろ話を聞いて、海外や途上国に漠然と関心を持ちました。地元の大学を出て地元で働くのが一番、みたいな価値観の環境だったことも影響したかもしれませんね。

大学では教育学を専攻していて、子どもの遊びや、人が没頭するとはどういうことか、に関心がありました。遊びには身体活動やスポーツも含まれるので、スポーツを通して国際協力を、という大学院のプログラム「スポーツ国際開発学共同専攻」が筑波大に新しくできると聞いて、これだ、と思いました。実際には、正式にスタートする前の「0期生」だったと思います。研究対象に選んだのは、難民キャンプです。難民キャンプには子どももたくさんいて、遊びのプログラムなんかもありますし、支援の在り方に対する視点を得ることができました。

必修科目に海外インターンシップがあり、休学も含めて1年間、タイの難民キャンプで活動しました。その支援団体に、そのまま就職することになったんです。大学で学んだことが現場では通用しない場面も多いですが、最短距離で自分のやりたい職業に就けてラッキーだと思っています。

学生時代の一番の思い出

プログラムについていくのに精一杯で、逆に、学生っぽい「やらかし」みたいなことはなかったので、もう少し学生生活を楽しんでもよかったとは思います。でも、プログラム自体が立ち上げの時期だったこともあり、関心があることはなんでもやらせてもらえました。受講していたのは自分も含めて二人だけだったんですけど、同じく始まったばかりのTIAS（つくば国際スポーツアカデミー）に参加している留学生と一緒に授業を受けることが多く、社会人経験のある人や競技スポーツの選手なんかもいて、いろんな視点を学ぶことができました。海外や異文化の中で働く上での擬似体験になったと思います。

インタビューのロングバージョンは、筑波大学Podcastでお聴きいただけます。

筑波大生に向けてのメッセージ

筑波大は本当にいろんな経験ができる大学です。また、いろんなネットワークや情報源が身近にあって、刺激的でチャンスも多い。いろんな人と関わって、自分の価値観や考え方を広げる機会がたくさんありますので、ぜひ活用してほしいです。

PROFILE あさぎ まりや

愛媛県出身／2017年 大学院人間総合科学研究科博士前期課程体育学専攻修了／公益社団法人シャンティ国際ボランティア会ラオス事務所 コーディネーター